

主題	自立支援に向けたサービス提供
副題	ご利用者により安心して生活して頂く介護の実践
自立支援	他職種協働

研究期間	6ヶ月	事業所	ウエルガーデン伊興園
発表者：中島 拓己（なかじまたくみ）		アドバイザー：杉本 浩司（すぎもとかうじ）	
共同研究者：			

電 話	03-5838-1500	メール	wg-ikoen@welgarden.or.jp
FAX	03-5838-1501	URL	http://welgarden.or.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	ウエルガーデン伊興園がある地域は、古く弥生時代から人々が生活しゆたかな文化を築いてきた遺跡のある街です。平成13年5月に開設し今年で開設13年目を迎えます。特養130床、短期入所26床、通所介護、居宅支援事業所、訪問介護、包括支援センター等がある施設です。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

今回の「自立支援」を目標に掲げる前は、利用者個人のケアプランは検討出来ていても、その内容や援助が職員に浸透するのが難しい状態であり、プラン援助が確立出来ていなかった。また、施設全体としても取り組みがなく、職員の援助もばらばらな方向を向いており、その日その日の利用者への援助を行っていた。今回の自立支援の取り組みにあたり、当施設では何から初めていいかわからず、また、施設全体としての取り組み、職員一人一人が一つの目標に向かって介護に取り組む事がなかったので、職員一人一人の意識の改革を行う事が当面の課題となった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

施設内における日中のオムツ・下剤ゼロを目標とする。水分アップを図り、利用者の覚醒レベルを上げ、歩行・運動を取り入れ、全利用者のトイレでの排泄を目指していく。また、日中の十分な水分・運動により、下剤を使用せずに排便が促せるように取り組む。今までは利用者のADLを落とさない取り組みを行ってきたが、今回の取り組みにより、利用者のADLを向上させる事で介護の考え方を改めてもらい、また、自分達の取り組みが達成されることで、日々の業務が意味のあるものであることを理解し、仕事への達成感、介護専門職者としてのプロ意識、職員全体の連帯感を持ってもらえるように意識改革を目的としている。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・人間が生きていく上で必要最低限の水分摂取。1日1500cc以上を目標とし提供に工夫しながら摂取して頂く。
 - ・排泄形態は基本トイレ誘導に移行し、トイレでの排泄を促す。
 - ・他部署と協力して、毎日13時半から30分程度、数人で屋外散歩に出る。
 - ・下剤を使用せず排便が出来る様、支援をしていく上で出来る限り下剤を抜いていく。
 - ・車イスから少しずつ歩行を促していく。
- 以上の事を、施設長、特養職員、関係部署で協力し、平成25年1月より実施した。

《4. 取り組みの結果と考察》

- ・少しずつではあるが水分摂取量が上がっていった。

平成25年	1月	1,002cc
//	2月	1,076cc
//	3月	1,119cc
//	4月	1,280cc
//	5月	1,311cc

特養全階平均（胃瘻者を除く）

- ・月によりムラはあるが、日中水分をしっかり摂る事により体温調節ができ、20時以降に発熱した方（ターミナル・肺炎と診断された方等を除く）の減少が見られた。

平成25年	1月	33件
//	2月	14件
//	3月	13件
//	4月	9件
//	5月	15件

特養全階合計（胃瘻者を除く）

- ・日中オムツ使用率

平成24年9月	46%
平成25年4月	36,15%
// 5月	28,46%

《5. まとめ、結論》

- ・水分摂取量が1,500cc以上の方は発熱する確率が低い。また、夜間良眠される確率が高い。
- ・4、5月に水分摂取量が1,500cc近く摂取でき、屋外散歩に参加されている方は体調不良なし。
- ・車イスの方が歩行器を使用し歩行出来る様になった。
- ・下剤を軽減させる事が出来た。
- ・水分摂取、下剤の軽減、歩行器を使用出来る様になった方はいずれも数人であり、今後ご利用者が自立した日常生活を営むことができるようサービス提供をしていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

- ・なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・著者：竹内孝仁「家族で治そう認知症」年友企画 2011年4月
- ・著者：竹内孝仁 藤尾裕子「おむつを外し尿失禁を改善する」筒井書房 2011年11月

《8. 提案と発信》

介護保険は、自立した日常生活を営める様になる為の支援を行うものであり、年々高齢者が増加する中、日々外出をしたり、食事をしたり、トイレで排泄をするなど、私達、皆さんが当たり前にやっている事と同じ生活を送れる様に高齢者を支えて行きたい。ご利用者の生活を止めない支援をして行きたい。

【メモ欄】